



高田 光彦 先生

略歴

2003年 3月 岡山大学歯学部
2003年 4月 高田歯科医院勤務
2005年10月 高田歯科 開院

現在

日本臨床歯周病学会 理事
日本口腔インプラント学会 代議員
日本顕微鏡歯科学会 認定医

顕微鏡歯科臨床～Dr.が使うDHが使う，新しい臨床スタイル～

高田歯科／歯科臨床研鑽会
高田 光彦

2005年にCTを，2008年に手術用顕微鏡を導入して以来MI治療を押し進めてきた。その結果，インプラント埋入本数は年々減り続け開業時には150本/年だったものが直近では5本/年にまで減少してきた。その影には精緻な診査診断が可能になったことが大いに影響している。また，それに伴いDH業務においても徐々に拡大治療の必要性が感じられるようになってきた。

当院では2008年ごろからDHもルーペによる拡大視野下での処置を行ってきっていたが，ルーペでは“診る”ことはできてもそれを“患者に伝えて価値観を共有する”ことは非常に困難を極めていた。そこで2015年ごろからはDH業務においても手術用顕微鏡を用いるようにしてきた。顕微鏡を使うことの最大のメリットは術者と同じ視野，同じ拡大率で患部を患者に見せることが可能になることであり，それにより価値観の共有は行いやすくなった。

今回，DHが手術用顕微鏡を臨床に用いることのメリット，その活用方法ならびにDr.が手術用顕微鏡を用いることで可能になった保存治療を臨床ケースを交えて話したい。